

施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	7 学校給食の充実	② 施策番号	7104
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 義務教育の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	教育総務課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・児童、生徒 ・保護者、教職員
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	・栄養バランスのとれた安全安心な給食を提供することにより、子どもの心身の健全な発達に寄与する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態か、今後どのように変化していくと考えられるか)	・国及び大阪府では、食育基本法に基づき食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目指しており、栄養バランスが取れた、食育に配慮した学校給食の提供が求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 給食を満足だと感じている児童の割合 計算式	%	給食は、学校教育活動の一環として実施するものであるため、その満足度は義務教育の充実へつながる
② 給食を満足だと感じている生徒の割合 計算式	%	給食は、学校教育活動の一環として実施するものであるため、その満足度は義務教育の充実へつながる
③ 計算式		

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	
①	給食を満足だと感じている児童の割合	%	—	100	100	100	100	H30からアンケート項目へ追加
			—	79.6	84.5	—	—	
				79.6%	84.5%			
②	給食を満足だと感じている生徒の割合	%	100	100	100	100	100	
			47.0	62.0	44.0	—	—	
			47.0%	62.0%	44.0%			
③			目標値					
			実績値					
			達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性
1	小学校給食提供事業	給食を満足と感じている児童の割合	%	—	79.6	—	131,980	140,317	167,374	B	イ b	◎
2	中学校給食提供事業	給食を満足と感じている生徒の割合	%	62.0	44.0	60.0	96,320	90,025	116,744	A	ア	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						228,300	230,342	284,118			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	安全安心な学校給食を安定して提供することは、食を通じて健全な食習慣を身に付け、豊かな心を育むことにつながり、ひいては義務教育の充実に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	安全安心な給食に対して児童生徒がどのように感じているかを把握できる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	給食の献立の立案に際して、学校関係者及び保護者で構成する献立委員会を開催し、市民からの意見を取り入れている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	小学校及び中学校の学校給食を安全安心かつ安定して提供していくうえで適切である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	継続して安全で安心な給食を安定して提供していくためには、給食センターの老朽化対策として新たな提供スキームの検討が必要である。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	今後、安全で安心な学校給食を安定して提供していくためには、給食センターの老朽化対策として新たな提供スキームの構築が必要である。 今後は給食費の公会計化の検討を進める必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	新たな給食提供スキームの検討を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	新たな給食提供スキーム、老朽化対策の決定とスケジュールの確定
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	公会計化への移行と給食センターの整備に着手する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	安心・安全な給食提供に向けた取組を引き続き進められたい。給食センターの老朽化対策については、様々な手法を検討の上、取組を進められたい。 また、給食費の公会計化については、様々な課題の検討を踏まえた適切な制度設計を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある